

# 目標設定シート (2009年度)

## 部局と評価項目・要素

対象部局	理工学研究科
大項目	0 理念・目的
中項目	
小項目	0.0.1 大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか。
要素	理念・目的の明確化 実績や資源からみた理念・目的の適切性 個性化への対応
小項目	0.0.2 大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員（教職員および学生）に周知され、社会に公表されているか。
要素	構成員に対する周知方法と有効性 社会への公表方法
小項目	0.0.3 大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。
要素	

## ○2009年度からの目標

1. 理念、教育目的が新中期計画と矛盾していないか2010年度中に点検し、矛盾している場合2013年度中に再設定する。
  2. 理念、教育目的を教員及び学生に対して2010年度中に周知徹底する。
- ※【理工学研究科の理念】  
自然科学の基本原則とその応用について先端的研究をおこない、自然科学の発展と人類の進歩に貢献する。
- ※【理工学研究科の目的】
- 1) 数学、物理学、化学、情報科学、生命科学の幅広い分野にわたり、それぞれの分野が有機的に連携しながら、基礎的研究から応用的研究まで、常に最先端のレベルの高い研究を行う。
  - 2) 専攻分野における深い知識と高度な研究能力を身につけるとともに、専攻分野を超えた幅広い知識を修め、広い観点に立って研究を行うことができる高度専門職業人や研究者を育成する。
  - 3) 理工学研究科の教育と研究は社会との繋がりの中にあることを常に意識し、研究成果を学界、教育界、産業界等社会に広く還元していくとともに、企業等で活躍する若手研究者を始めとする社会人学生の受け入れ、さらには国際社会との連携を推し進めるための外国人学生、外国人研究者の受け入れに積極的に取り組んでいく。
  - 4) 特別実験及び演習（前期課程・修士課程）、特別研究（後期課程）を理工学研究科の教育と研究の中心に位置づけ重視する。このなかで、それぞれの分野での最先端の研究に携わり、新しい未知の問題を発見し、それを探求し、解決していく能力とその成果を社会に活かしていく応用的能力を養う。

## ○指標

1. 再検討結果の報告書。
2. 公表したホームページ。